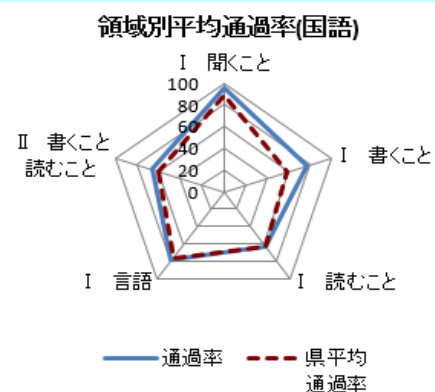
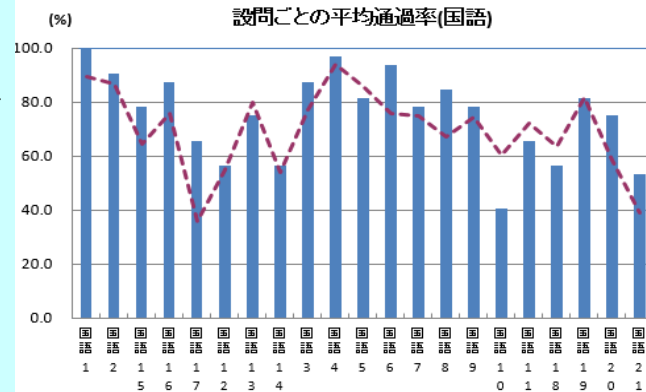


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 75.3%, 県69.7%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向について
国語の結果において、タイプⅠは77.4%、タイプⅡは66.4%の通過率となっている。また、通過率60%以上の生徒が81.3%である一方、30%未満の生徒が6.3%であり、活用力はもちろん、基礎的・基本的な内容についても定着が十分とは言えない。
- 昨年度の課題への取組の成果
昨年度は「書いた文章を読み返し、読みやすくわかりやすい文章にする」力（通過率34.3%）に課題があり、書いた文章の文法的な誤りや表現の伝わりにくさを自分たちで読み返して考えさせた結果、今年度は65.6%であった。また、「文章の展開に即して登場人物の心情を的確にとらえる」力（通過率48.6%）については自分で考える時間を確保して読み取らせた結果、今年度は展開を捉える設問で通過率75.0%、展開に即して内容を捉える設問では56.3%であった。

重点課題

【課題1】

・小学校第5学年の漢字「原因」を「げんいん」と答えず「げいん」と答えた生徒が50%、「げいん」が3%、解答欄がずれた生徒が6%。（大問三1④，通過率40.6%）

【課題2】

・根拠に基づいた考えの記述が求められる設問で部分のみを読み、設問のキーワードでもある「優しさ」に気づけていない生徒が28.1%、無答が12.5%、問題の意味を理解せず「優しさ」も共通点も書いていない生徒が9.4%。（大問五1(2)，通過率53.1%）

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題1】

・漢字帳に書いている読み仮名を定期的にチェックして、個のつまづきを全体へ提示することで全体の共通課題とする。特に、毎日の漢字帳を書かない生徒には定期的に個別の指導をする。

【課題2】

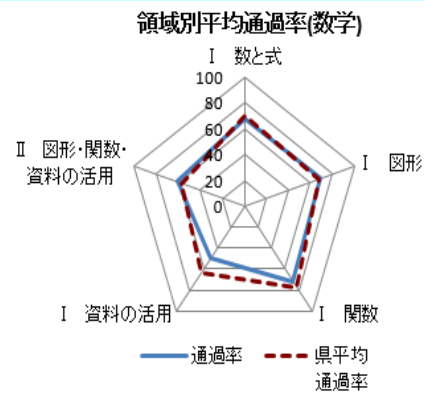
・授業の中では、生徒が思考する場面でこちらが読んで指示したり説明を補足したりすることがある。今後は、生徒が自分で問いを読んで考える時間を意図的に設け、個人思考の時間を確保する。また、NIE活動もからめて読んで考えて書く学習活動を取り入れる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 2学期期末テスト			1年生 学年末テスト	
目標値			100%			100%	
実施後数値							

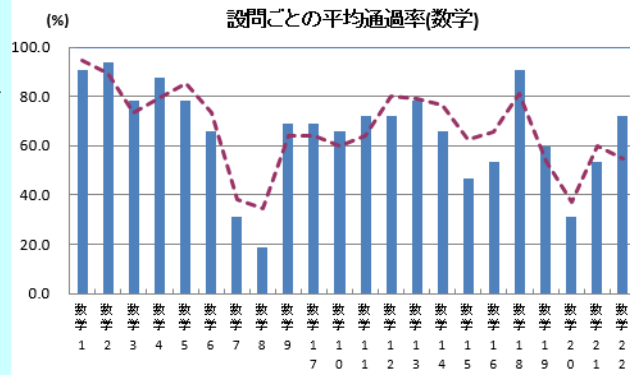
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 2学期期末テスト			1年生 学年末テスト	
目標値			80%			80%	
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 65.5%, 県 66.8%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向について
数学科の結果において、タイプⅠは66.7%、タイプⅡは61.3%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容について定着が不十分であり、それらを活用する力についても定着が不十分である。
領域の中では基礎的・基本的な「関数」について通過率が71.9%で一番定着率が高かった。
- 昨年度の課題への取組の成果 (あるいは課題)
昨年度は、「資料の活用 (タイプⅡ)」の2つに資料の比較問題において、通過率が48.6%で課題があった。そこで、2つの異なる身近な資料を提示し、比較させ文章に書かせ説明させることにより、相対度数の必要性を感じさせ、理解力を向上させる取組を行った。その結果、「資料の活用 (タイプⅡ)」の類似問題で、2つの調査結果を比較して説明する正答率が向上した。(昨年度48.6%, 本年度71.9%)

重点課題

【課題1】

・「比較量は、(基準量) × (割合) で求められることを理解し、数量の関係を文字を用いた式で表す」問題に課題がある。あるものを基準にして、他のものを表すことができていない。(大問2(2), 通過率 18.8%) (大問2(1), 通過率 31.3%)

【課題2】

・「事象を式の意味に即して解釈し、その結果について考える」問題に課題がある。与えられた文章から反比例の特徴を読み取り、それをどのように活用すればよいか分かっていない。(大問10(2), 通過率 31.3%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ・「比較量は、(基準量) × (割合) で求められることを、小学校で扱う具体的な問題を取り上げ、割合に関する内容の振り返りを行う。
- ・ICT機器などを使い割合の問題を表現した図を提示し、その図が表している意味を説明させる。さらに、その内容を文字を用いた式で表現させる。これらの活動を通し、内容理解の定着を図る。

【課題2】

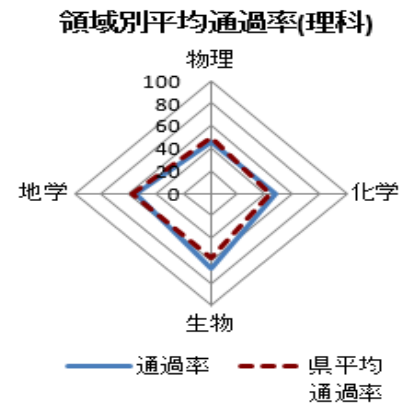
- ・「関数」の単元で必要になる基本問題について、数多く取り組ませ理解させる。さらに、身近な関数の事例をグラフを用いて提示し、そこから新たな情報が何故いえるか説明させることにより、関数の必要性を感じさせ理解力を向上させる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 類似問題			1年生 類似問題	2年生 類似問題
目標値			60%			70%	65%
実施後数値							

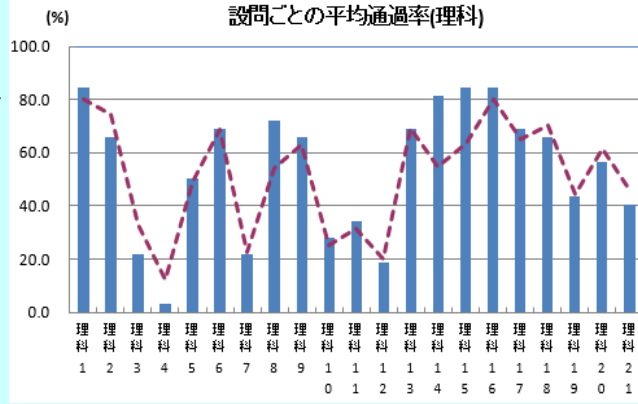
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 類似問題			1年生 類似問題	2年生 類似問題
目標値			60%			70%	65%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 53.7%, 県51.8%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向について
理科の結果において、タイプⅠは58.3%、タイプⅡは47.6%の通過率となっている。この結果から、基礎・基本的な内容については約6割の定着が図られていると考えられるが不十分であり、それを活用する力について課題が大きい。
- 昨年度の課題への取組の成果・課題
昨年度は化学領域の(タイプⅠ)「裸子植物と被子植物の花のつくり」において課題があった。(通過率2.9%)そこで、アブラナとマツの花の観察を行い、観察記録に基づいて特徴を見出すとともに、花の働きと関連づけて理解させた。その結果、「生物」の通過率が67.5%と向上した。

重点課題

- 【課題1】
・内容：タイプⅠ, 「力の3要素を理解し, 作図ができる。」【観察・実験の技能】に課題がある。(大問2(2), 通過率3.1%)
- 【課題2】
・内容：タイプⅡ, 「植物の観察結果を基に考察し, 植物を分類することができる。」【科学的な思考・表現】に課題がある。(大問5(1), 通過率18.8%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

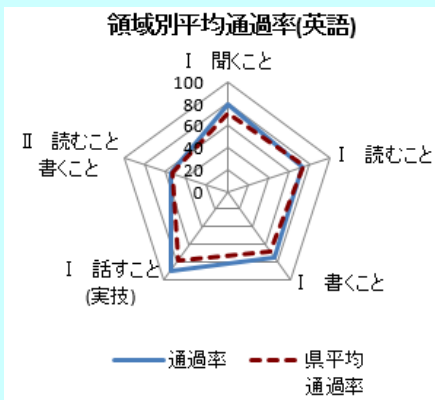
- 【課題1】
・「力とその表し方」の実験を行い, 力の働き, 力の3要素, 力の種類, 重力, 力の単位, 力の表し方, フックの法則などの基礎的基本的な用語を正しく理解させる。また, 力の3要素では, 日常生活と関連付けながら実験・観察を通して力の表し方を理解させる。
- 【課題2】
・植物の仲間分けの小单元において, 教科書にある植物だけでなく, 日常生活でも見られる植物にも目を向けさせ, 観察結果を基に考察し, 植物を分類する機会を増やす。また, 植物を分類する時に, 科学的根拠を上げさせ分類する習慣をつける。さらに, 小グループで互いに分類した根拠を発表するなどして科学的な思考・表現力を向上させる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生 2学期中間テスト	2年生 2学期期末テスト			2年生 学年末テスト	
目標値		60%	70%			90%	
実施後数値							

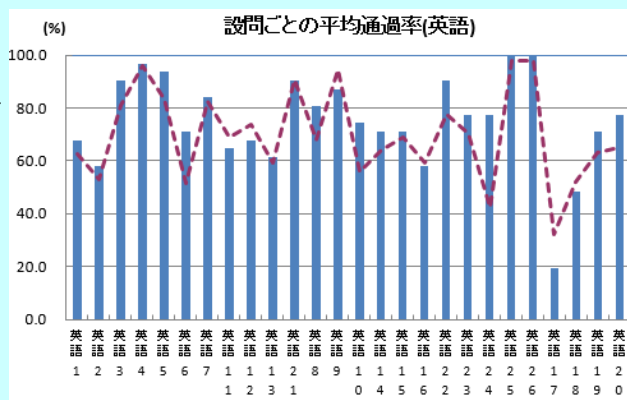
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生 2学期中間テスト	2年生 2学期期末テスト			2年生 学年末テスト	
目標値		60%	70%			90%	
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 74.9%, 県69.6%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向
英語の結果において、平均通過率は74.9%で、タイプIは78.7%、タイプIIは54.0%の通過率となった。また通過率30%未満の生徒は1名だった。この結果から、基礎的・基本的な内容については概ね定着が図られていると考えられる。
一方では、タイプIIのような問題では定着が不十分であり、学んだ知識・技能等を学習の様々な場面に活用していく力に課題があるといえる。
- 昨年度の課題への取組の成果と課題
昨年度は、聞くことの領域「2人の対話文を聞き、その内容についての質問に答えることができる力」(昨年度通過率32.4%)に課題が見られた。そこで授業時のQ&Aの活動を単調にならないように、様々なパターンで行う取組を行った。その結果として、本年度の同タイプの問題の通過率は58.1%に向上した。以前よりは対話の内容を理解して応答できるようになったが、まだ約40%の生徒が誤答している実態から、十分定着しきれていないことも課題である。

重点課題

【課題1】

- ・「適切な質問を考え英文を書く」力に課題がある。疑問文の応答文が「He wants a jacket.」になることから、正答は「What does he want?(彼は何を欲しがっているの)?」と書くところを、疑問詞を使わない文や、主語を you にするなど、対話文の内容を理解できていない実態がある。(大問11-1, 通過率19.4%)

【課題2】

- ・「根拠となる英文を読み取る力」に課題がある。「ジャケットを買うことができない理由を日本語で書きなさい」という問題で、「ジャケットは85\$だが手持ちのお金は80\$なので買うことができない」と答えられない生徒が多く、根拠となる英文を読み取る力の定着が不十分である。(大問11-2, 通過率48.4%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ・場面・状況に応じた英文を書かせる学習課題を多く設定する。具体的には、自己紹介・他者紹介などの英文作成をする学習課題だけではなく、さらに様々な場面・状況を設定して、各単元で学んだ内容・文法事項を使えば答えることができる課題を多く設定し、疑問文や応答文の作り方を定着させていく。

【課題2】

- ・まとまった量の英文と資料(絵・地図・ポスター等)を関連させた問題を用意して、理解に時間がかかる生徒については、必要に応じてヒントや手がかりになる語や文を説明して問題を解かせることを繰り返していく。その際には生徒が自分で解いた答えと理由について、ペアや班内で説明し合う活動を取り入れるなど協働的に学ぶ過程を取り入れて、理解を深めるようにする。

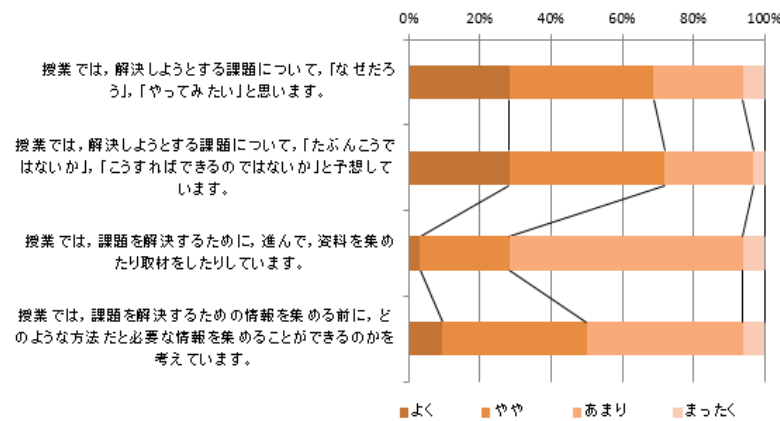
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 復習テスト			2年生 復習テスト	
目標値			60%			70.0%	
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 類似問題	1年生 類似問題		1・2年生 類似問題	
目標値			60%	60%		1年70%, 2年75%	
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

(1) 生活・学習

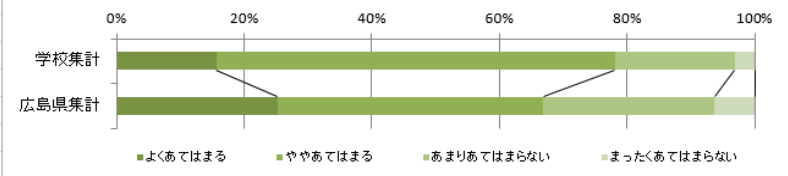
「課題発見・解決学習」(1)



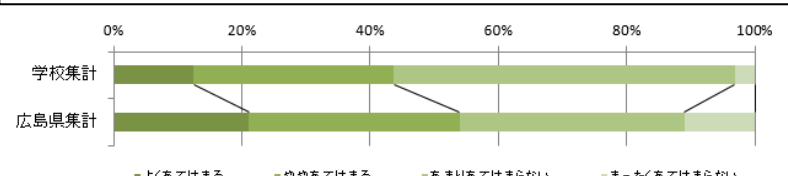
生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。」について、肯定的評価をした生徒は、28.1%である。「なぜだろう」「やってみよう」や「たぶんこうではないか」などと予想しているのが約70%、情報収集に必要な方法を考えているのが約50%であり、行動に至っていないと見ることができる。	課題発見に至る視点の示し方を工夫するとともに土台となる既習事項・他教科や生活との関連などをおさえ、知的好奇心を刺激する学習環境をつくる。各単元（題材）について収集・取材活動からの協働的学習を意識した活動を1回は取り入れる。その際は、予習などの工夫により、効率化を図る。	2	80%	生徒アンケート	11月 2月		

(2) 教科

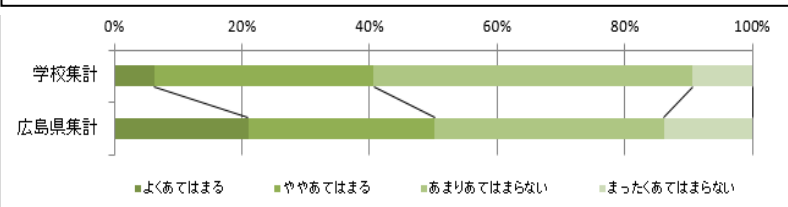
国語の授業の中で、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしています。



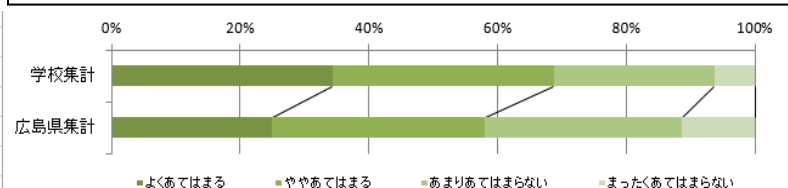
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「国語の授業では、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしています。」と肯定的に回答した生徒は78.1%である。	NIE活動を国語科の学習に取り入れ、自分たちで記事を読んで考えたことを話したり書いたりする学習に取り組ませる。	2	90%	生徒アンケート	12月		
数学	「数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。」肯定的に回答した生徒は43.8%であった。	ペアや班内で説明し合うなど協働的に学ぶ過程を、今まで以上に設定して行う。また、テストに理由を書かせる問題を出題し、理由付けの大切さを指導する。	2	90%	生徒アンケート	12月		
理科	「理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。」の肯定的な回答率は40.7%であった。	授業の中で、小集団(4人から6人)や全体で自分の考えをノートに書き、説明させる場を設定し、根拠を示しながら自分の考えを説明することや自分の考えと比較しながら聴くことを指導する。	2	90%	アンケート	12月		
英語	「英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。」の肯定的な回答をした生徒は68.8%であった。	授業の中で、ペアやグループ活動を多く取り入れ、授業の前半で自分の意見や考えが言えるようQ&Aの中で手助けをする。	2	90%	生徒アンケート	12月		